

多可町生涯学習まちづくりプラザ建設設計画

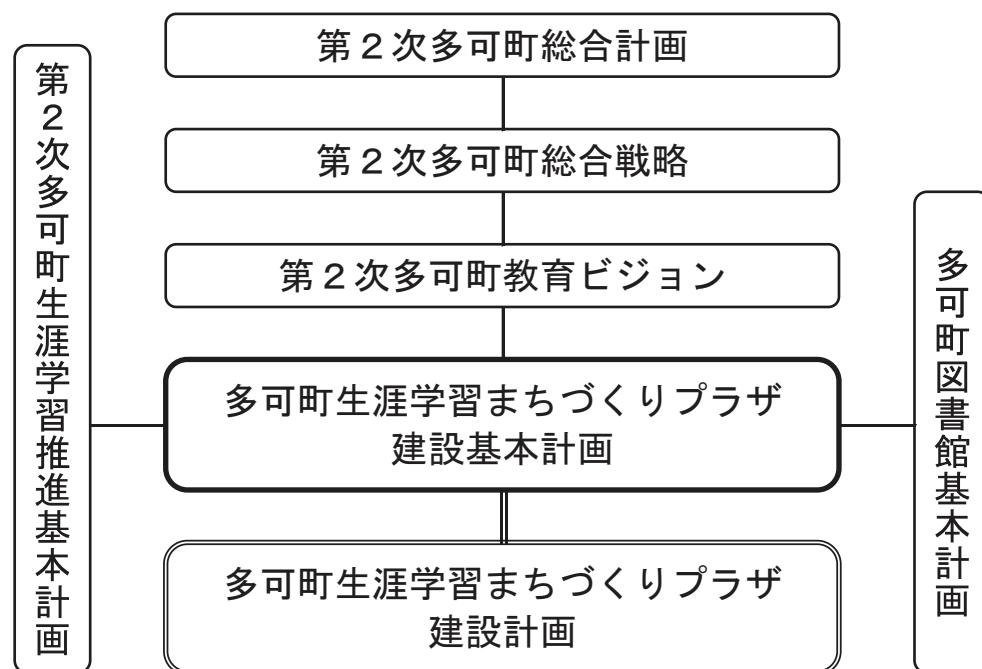
令和4年 月

多可町

(4) 建設計画の位置付け

建設計画は、基本計画を基本概念として、理念や機能、計画地の条件等、基本計画を具現化するための計画とします。

今後、この建設計画を基に施設の基本設計・実施設計や建設工事に取り組みます。



[建設計画の位置づけ]

－3. 新たに求められる機能等

既存施設には無いが今後必要と考える機能について、検討委員会における中学生・高校生とのワークショップでも多くの要望が多く寄せられた下記の機能を整備することにより、幅広い生涯学習ニーズに対応できる施設を目指します。

D I Y室	美術・工芸・木工などに使用できる部屋とし、住民の創作意欲の向上に寄与します。子育てふれあいセンターとも連携し、木のおもちゃに触れる体験や木工ワークショップ等を企画し、木育活動を進めます。
音楽室	コーラス・楽器演奏・バンド練習などに使用するために防音機能を持った部屋とし、芸術活動の活性化に寄与します。
自主学習室	気軽に使える学習室を整備し、学生のニーズに応えます。 また、リモートワークでの利用等も考慮し、現役世代の利用や起業支援にも寄与するよう努めます。

また、これからの中づくりに必要な機能として下記の機能を整備し、全ての町民が気軽に集い・つながる施設を目指します。

男女共同 参画コーナー	女性の活躍を推進するとともに、全ての町民が性別に関係なく、あらゆる分野で個性と能力を十分に發揮し活躍できるまちづくりを進める必要があります。また、DVなどあらゆる暴力の根絶に向けた啓発・教育の推進が必要です。相談員の配置も検討し、気軽に集い・相談できる体制づくりが必要です。
多文化 共生センター	町内に在住・在勤する外国人が増加しています。現状では「多可日本語教室」を開催し、日常生活に必要な日本語学習機会の提供や簡単な生活相談に応じています。行政情報の提供による災害時のセーフティーネットの役割など、多文化共生社会実現のための取り組みを強化する必要があります。 そのためには、日本語教室支援サークルの支援者など、取り組みに関わる人材を増やすことも必要です。
ボランティア スペース	持続可能な町をつくるためには、各種団体・登録団体等が自主的・自立的に活動できる環境が必要です。ミーティングや事務に気軽に利用できるスペースを設け、団体の活性化に寄与します。



[「たかウイメンズ・ステップアップセミナー」でのワークショップの様子]



[「多可日本語教室」での七夕会の様子]

その他、町内にある生涯学習関連施設との連携強化や、それぞれの施設が持つ機能や特徴を生かした学びの場や機会の提供を進めるとともに、得意分野を生かした連携プログラムの開発など、ネットワーク化を進めます。

特に、加美・八千代コミュニティプラザや同図書室とのより一層の連携を強め、3プラザ体制の強化を図ります。

(3) 地域の特性・周辺のまちづくりとの関連

－1. 回遊型ネットワークの形成

まちづくりプラザを現北アリーナ敷地、統合中学校を現中央公園サブグラウンド敷地に計画することで、周辺エリアを「子ども子育て・学びと健康のエリア」と位置付けます。また現中町中学校敷地を新都市公園として再整備し、ベルディーホールを含めたエリアを「スポーツと文化のエリア」と位置付けます。この特徴的な2つのエリアを道路や遊歩道で結び、回遊型のネットワークを形成することにより、町中心部に「ひと・もの・こと」の循環を生みだすことで、にぎわいの創出を図ります。

－2. 交通の特性

計画地周辺は幹線道路である国道427号に接するほか、旧JR鍛冶屋線を活用した「ぽっぽの道」や杉原川沿いの「遊優のみち」等の遊歩道が整備されており、車両・歩行者の両者にとってアクセスしやすい立地となっています。

また、町内各所から年代を問わずアクセスしやすいエリアとするため、施設周辺の道路や公共交通（バス停等）の整備について検討していきます。



－3. 周辺施設の有効活用と活性化

「子ども子育て・学びと健康のエリア」は、中央公園を中心にアスパルや子育てふれあいセンター、中央公園プール等が立地した公共施設の集積地となっています。これにより「まちづくりプラザ」を中心に町の教育を担う「統合中学校」、健康とスポーツを支える「アスパル」、子育て支援を充実する「子育てふれあいセンター」、「児童広場」が配置されることとなり、既存施設の有効活用と活性化を図りながら、多世代の交流を育むことが可能となります。またこのエリアには地域医療拠点である「多可赤十字病院」や町外からの集客交流施設となる「道の駅 山田錦発祥のまち・多可」も立地しており、まち全体のにぎわいの創出や活性化が期待されます。

施設間連携の具体的なメリットとしては、多様な書籍がある図書館で統合中学校の授業を連携利用することによる学習効果の向上、豊富な児童書を有する図書館が子育てふれあいセンターと隣接することによる子育て機能の充実、生涯学習の拠点であるまちづくりプラザと生涯スポーツの拠点であるアスパルが隣接することによる相互の施設利用促進、児童広場と隣接することによる児童広場の利用活性化、都市公園内に位置することによるウォーキングをする高齢者の休憩利用、統合中学校・子育てふれあいセンターと隣接することによる保護者の居場所としての利用などが挙げられます。



[配置図]

3. 施設の機能整備方針

(1) 基本コンセプト

まちづくりプラザは、あらゆる世代が互いに学びあい、教えあい、人がつながるまちをつくるために、学習機能の提供や活動場所の確保、学習情報の発信や学習成果を発表する機会を提供し、学習を通じて得た知識、交流の広がりをひとつくりに生かし、多様性を受け入れることができるまちづくりの拠点施設となります。

総合計画

生涯学習を通してあらゆる世代が互いに学びあい、教えあい、人がつながるまちをつくる
「拠点施設の整備」

基本理念

地域社会の中でみんなに出番があるように、
生涯にわたって知識を深めるための居場所や
集える場の整備をめざす。

(2) 基本方針

基本コンセプトに基づく、まちづくりプラザの基本方針と役割、これを実現するための施設整備・運営の方針を示します。

基本方針

○生涯を通じた学びを支え発信する【学習拠点】

- 自発的な学習機会や活動場所を提供する学びの場
- 本やメディア等の情報を通じて学びを深める場
- 学んだ成果を地域づくりに生かす発信の場

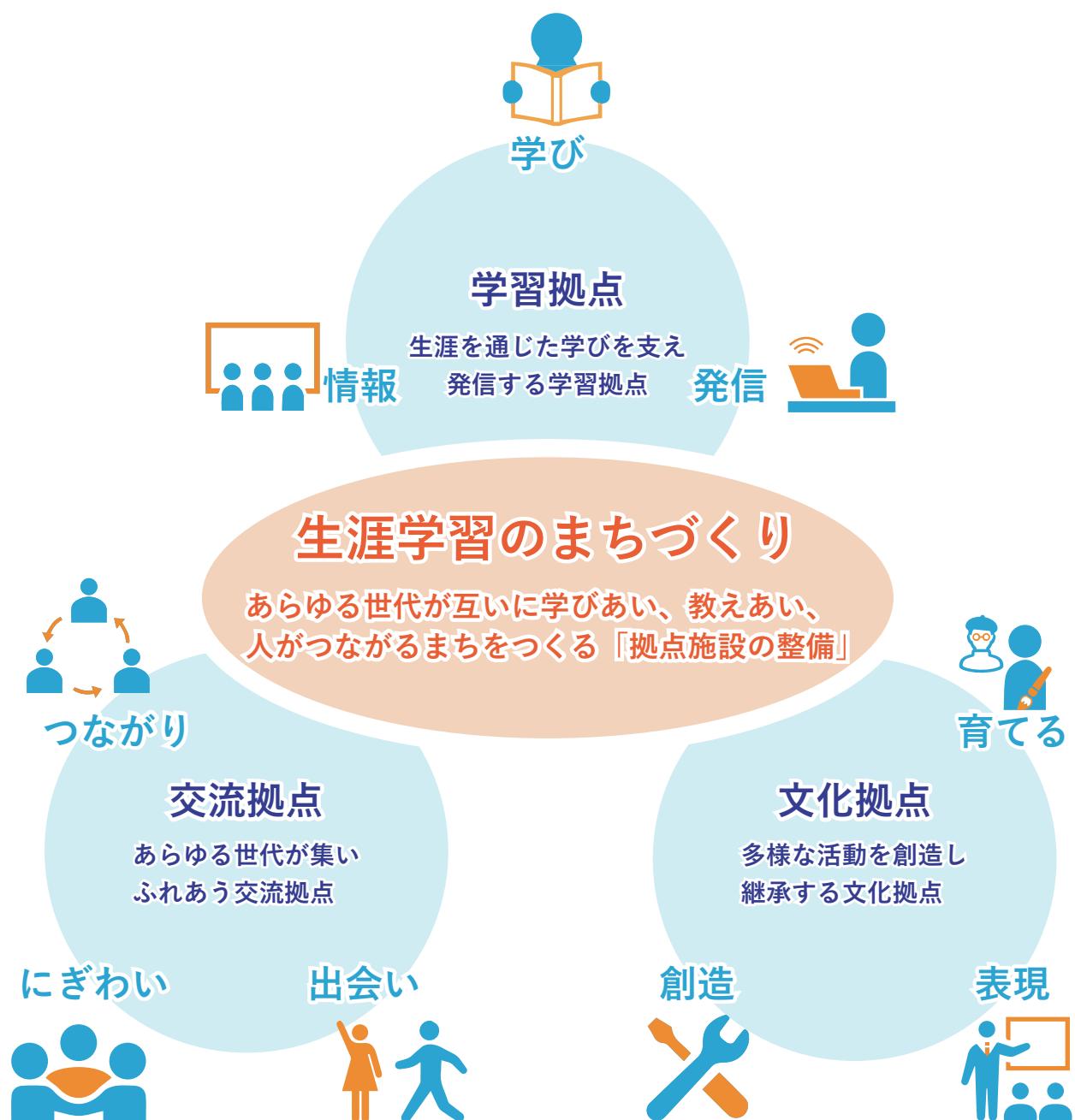
○あらゆる世代が集いふれあう【交流拠点】

- 町民や来訪者が立ち寄りたくなる出会いの場
- 立地を生かし周辺施設の利用者のつながりを生む場
- 多世代のふれあいを通じ町全体のにぎわいを高める場

○多様な活動を創造し継承する【文化拠点】

- 町民の芸術文化活動の表現の場
- 新たな芸術文化の創造の場
- 芸術文化の担い手となる人材を育てる場

あらゆる世代が互いに学びあい、教えあい、
人がつながるまちをつくる「拠点施設の整備」



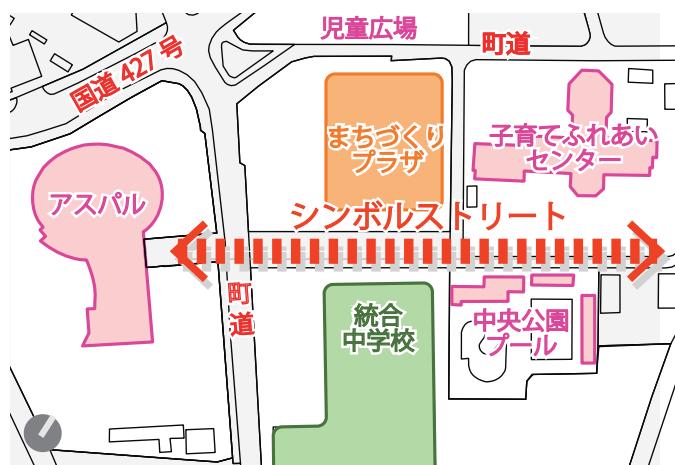
[コンセプトダイアグラム]

4. 施設計画の考え方

(1) 導入機能

－1. 施設間の連携を高めるシンボルストリートの計画

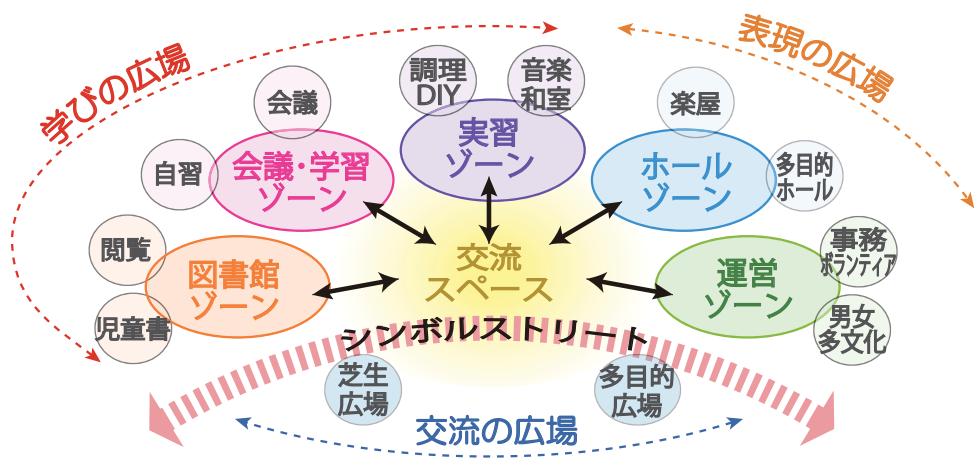
「子ども子育て・学びと健康のエリア」を一体的につなぐシンボルストリートを計画します。この動線によりアスパル、子育てふれあいセンター、中央公園プール等の既存施設との相互利用と、統合中学校との連携を効果的に高めるとともに、子どもからお年寄りまで安心して利用できる歩行者空間とし、イベントスペースとして利用できる計画とします。



[シンボルストリートによる施設連携のイメージ]

－2. 施設全体の配置の考え方

基本計画の基本理念に掲げる「3つの広場」について、類似機能をまとめた5つのゾーンに分類することで施設配置をより明確なものとします。まちづくりプラザの「交流スペース」を中心に、5つのゾーン及びシンボルストリートを配置することで、多世代の交流を促進しにぎわいのある生涯学習拠点を実現します。



[まちづくりプラザの施設構成]

－4. 防災機能

まちづくりプラザは、指定緊急避難場所（地震・大雨時）及び福祉避難所となります。避難所としての機能を確保するよう、耐震性、対浸水性、機能維持性を確保した防災機能を整備します。

○防災対策

- ①大地震後、構造体の大きな補強をすることなく建築物を使用できることを目標とし、人命の安全確保に加えて、機能維持が図られる耐震性を確保します。（耐震安全性の分類II）
- ②キュービクルを屋上に設置し、浸水時の電源確保を図ります。
- ③浸水に対応できる盛土造成及び、1階床高の設定を行います。
- ④建築物内への浸水を防止するための水防設備（防水板、防水扉）の設置を検討します。
- ⑤浸水時にも使用することができ、避難所であることから2階に備蓄倉庫を設けます。
- ⑥停電時に電源供給車等から施設への電力供給を可能とする電力接続口を設けます。
- ⑦2階に調理室、会議室、和室を配置することで、浸水時も調理機能や避難スペースを確保します。
- ⑧避難所であることからマンホールトイレを設置します。
- ⑨多目的ホール、会議室、和室などを要配慮者の避難所として活用します。



[③] 備蓄倉庫



[⑤] 避難所機能



[⑥] マンホールトイレ

－5. 環境性能

○内装木質化

多可町は「人と自然が共生する新たな森林サービスで幸福度高まる TAKA[多可] 創生事業」をテーマとした S D G s 未来都市に選定されており、今後の公共施設整備にあたっては木造・木質化による資源循環型社会推進に貢献していくことが重要です。まちづくりプラザでは兵庫県産木材を用いた内装木質化を積極的に行うことで地域森林資源の有効活用を図ります。



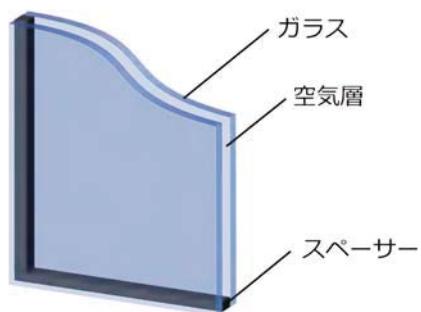
内装木質化（会議室など）]



内装木質化（ホールなど）]

○省エネルギー化・その他

2050 年カーボンニュートラル達成に向け建築物の省エネルギー化への取り組みの普及が求められています。まちづくりプラザにおいても複層ガラスや日差しを遮る日除けの設置、効率的な空調方式の選定等、建物のエネルギー消費量を減らす建物づくりにより脱炭素化社会の実現に貢献していくことが必要です。



[複層ガラス]

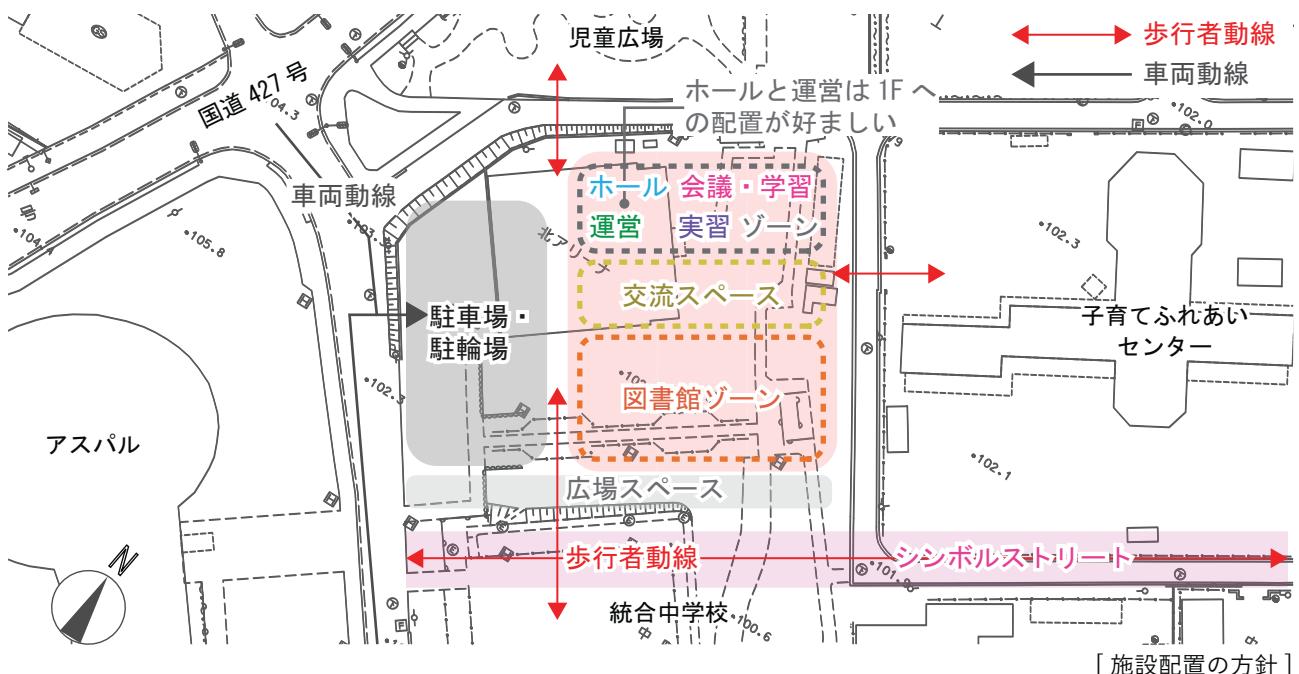


[日除けのためのルーバー]

(2) 整備にあたっての前提条件

—1. 建設場所における施設配置の方針

南側にアスパルを起点とするシンボルストリートを配置し、各施設への移動や相互利用がしやすい計画とします。シンボルストリートに面してまちづくりプラザの広場スペースを配置します。まちづくりプラザの建物西側に駐車場・駐輪場を設け、国道427号から進入しやすい計画とします。



—2. ゾーン配置の方針

建設場所におけるゾーン配置は以下の方針とします。

○図書館ゾーン

気軽な来訪を目指し1階への配置を前提とします。また広場スペースとの連携が可能な南側への配置とします。

○会議・学習ゾーン

大中の会議室は隣接した配置とします。自主学習は図書館ゾーンから利用しやすい位置への配置とします。

○実習ゾーン

活動音が発生することから、他のゾーンとの距離確保や防音性に配慮した配置とします。

○ホールゾーン

多人数の利用が想定されることから、バリアフリーや避難安全性、搬出入を考慮し1階への配置を基本とします。

○運営ゾーン

施設入口から視認しやすく交流スペースに面した1階に配置します。

○交流スペース

建物のエントランスホールとなるよう施設中央に配置します。また吹抜等を介して、各ゾーンへのアクセスルートとなるよう計画します。